

牛の放牧の手順

A. 放牧予定地の状況の把握



1. 面積・周囲の状況
2. 生えている草の状況
3. 水源の確保
4. 地域住民の意向（同意）
※事前に地域のみなさんの理解を得ておくことが最重要
5. 放牧牛の確保（放牧に慣れた牛）
6. 電気牧柵・牛の管理者がいるかどうか

B. 放牧施設の概要（それほど経費はかかりません。10～20万ほど）



右上 電牧線
中上 ゲート
下 電牧支柱



ソーラー電牧器



日除け
（暑熱対策）



飲水施設
（小川・湧水、水路等の利用も可）

C. 放牧施設設置の手順



1. 電牧設置場所（外周）の草刈り（幅1 m）
2. 支柱を立てる（コーナーは堅固に）
3. 電牧線を張る
4. 電牧器を設置する
5. アースを打ち込み電牧器に接続する
6. 電牧器と電線をつなぐ（電圧の確認）
7. 飲水施設を設置し、飲水を確保する
8. 注意看板の設置

D. 牛を放牧する場合の手順

1. 放牧によく慣れた妊娠牛を使う
2. 殺ダニ剤の塗布
3. 水飲み場を教える
4. 放牧開始後しばらくは、牛が落ち着くまで見守る
（牛が外周に沿って歩きまわり、自ら安全を確認します）
5. 放牧期間中は、牛の健康状態と電気牧柵・水飲み場の様子を毎日確認



E. そのほか

- ・基本的にはイノシシやシカ用の電気牧柵の設置方法と同じです。
- ・放牧馴致（放牧に慣れさせること）を十分おこなった牛、放牧経験牛を放牧します。
（電気牧柵は心理柵。放牧に慣れた牛は逃げ出すことはありません。）
（妊娠中の牛は、発情がないため落ち着いています。）
（牛は群れる動物なので2頭以上で安心します。）
- ・万が一、脱柵した場合に備え、民間の損害保険会社の施設賠償責任保険に加入することもできます。
- ・ふん尿を気にされる場合が多いのですが、十分広い面積を確保し、草だけを採食するので、嫌なニオイはほとんどしません。
- ・近隣の河川等（河川・地下水・水路）の汚染は全くありません。
（放牧地の土壌保全機能は極めて高い。）